

# Audio Accessory

Audio Accessory

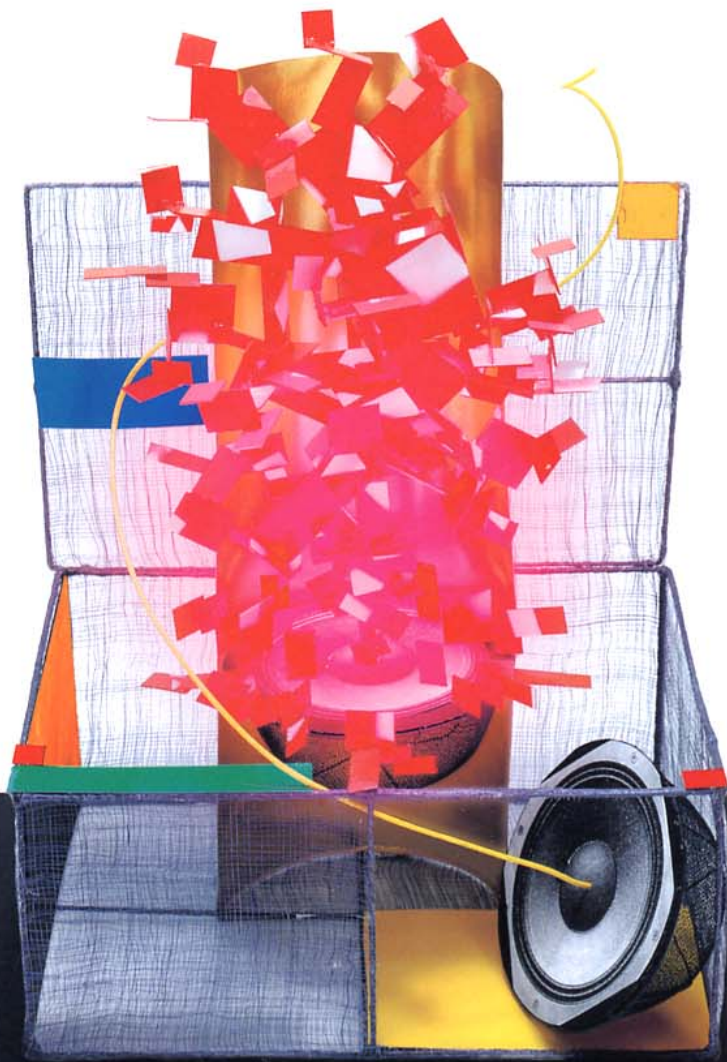
95 WINTER

特集 ● 衝撃! 次世代オーディオ4機種 of 全貌をチェック

● DVDオーディオ対応コンボ徹底研究 ● 恒例! 年末の新製品120機種 of テストレポート

● オーディオCDレコーダー大スクランブルテスト1 ● 重点アクセサリ研究 ● CDプレーヤー of 音質向上グッズを徹底チェック

● 特別紀行 ● イタリアの音を訪ねて ● 江川三郎実験室 ● 長岡鉄男 of ワンダーランド

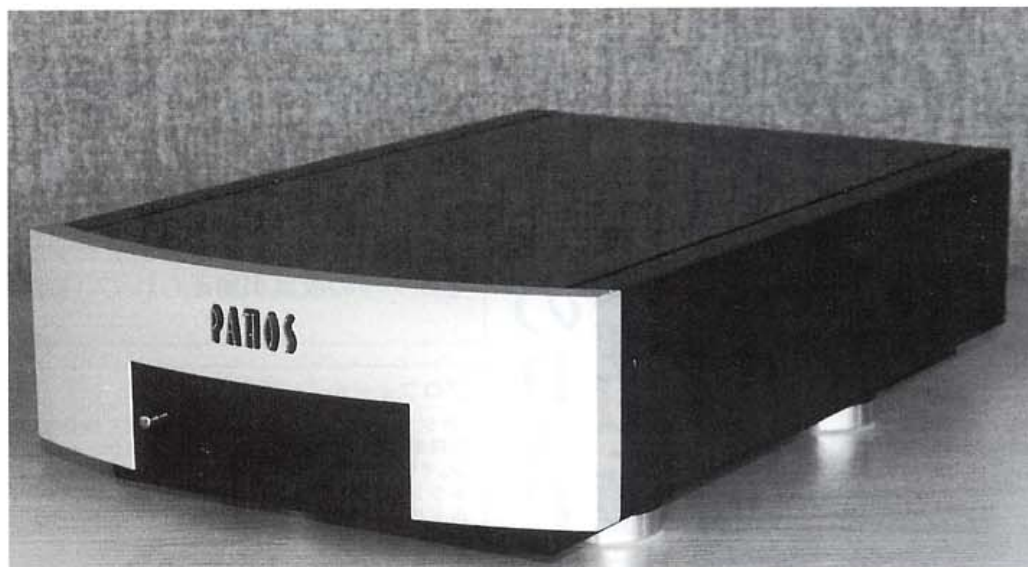


特集 ● 衝撃! 次世代オーディオ4機種 of 全貌をチェック ● DVDオーディオ対応コンボ徹底研究 ● 恒例! 年末の新製品120機種 of テストレポート ● オーディオCDレコーダー大スクランブルテスト1 ● 重点アクセサリ研究 ● CDプレーヤー of 音質向上グッズを徹底チェック ● 特別紀行 ● イタリアの音を訪ねて ● 江川三郎実験室 ● 長岡鉄男 of ワンダーランド

音元出版

1999 WINTER 95

オーディオ銘機賞2000決定



**注目のポイント**  
 デザインの国イタリアを強く印象づける美しい製品で知られるパトスアコースティック社が造ったD/Aコンバーターユニット。既発売の同社コンポーネントに共通するクリーンなデザインと高音質を継承した魅力あふれるDACユニットだ。

## 定評あるサウンドを継承する パトス初のDACユニット

小林 貢



デジタル入力はRCA・1系統のみ。アナログ出力はRCAとXLR

### プロフィール

洗練されたデザインと細部まで妥協しないクラフトマンシップが融合した、イタリア・パトスアコースティック社のD/Aコンバーター。純銀線による内部配線等、細部まで神経が配られている

### 主なスペック

●DAC→20bit パーブラウンPCM63PK ●アナログ部/フィルタステージ→純A級 ●S/N比→110dB ●サイズ→239W×112H×388Dmm ●質量→6.1kg ●取り扱い→標準スペース

### 総合音質評

鮮度の高いナチュラルさ  
程よい温度感が好ましい

RCAの同軸デジタル入力1系統、RCA、XLRのアナログ出力2系統のみというシンプルな構成が高音質を予感させる。定評あるパーブラウン製の20ビットDACチップをはじめ厳選したハイグレードパーツで固め、内部は純銀線でワイヤリングされている。これに純A級のアナログステージを組み合わせることで高音質を実現しているという。

シンプル・イズ・ベストを実感させられる鮮度の高いナチュラルなサウンドが聴ける。そして聴感上十分な「特」を確保し緻密な情報を引き出してくるという印象を受ける。ピアノは響きが美しく、余韻の透明度も高い。それでいてVOやアコースティック楽器に程よい温度感があるのが好ましい。ダイレクト2ch録音の「ライト&シールド」では演奏にテンションを送り込むスネアドラムのショットに切れの良さがあるが鋭角的なところはなく、小山太郎の多彩なシンバルワークのディテールも鮮明に再現する解像度の高さが感じられる。ピアノは瑞々しい音でアドリブフレーズに生命感があり、管球式コンデンサーマイクで録ったウッドベースの音も深みと温もりが感じられなほど音源の特徴が忠実に引き出される感がある。「アウト・オブ・ブルー」ではタムの口径差やヘッドの撓みを鮮明に引き出し、キックドラムの空気感もリアル。

### 魅力のポイントと使いこなす

### 本機の美しさを損ねない環境づくりを心がけたい

同社の第一弾作品である「ツイントワーズ」と共通する造形美を誇るデザインが大きな魅力だ。サイズも小さく現用システムに追加するのにも最適で、一世代前のCDプレーヤーやエントリークラスからミドルクラスのCDプレーヤーのグレードアップが可能になる。

小型故にスピーカーからの音圧も少なくなるというメリットもハンドリングのよさにつながる。サイズを考えると重量は比較的重いグループに入るの、美しいプロポーションながら耐震性も高いといえるだろう。しかし本機の美しさをスポイルしないよう、音質とデザインが両立した欧州製のラックを与えたい。またRCA端子は金メッキ処理された良質なものが使われているので、良質なコネクティングケーブルは必須条件であろう。

### こんな人におすすめ

オーディオコンポーネントは音の良さだけではなくデザインも美しくなくては満足できない、という人。同じイタリアのスーパースポーツでもランボルギーニではなくフェラーリの美しさを選ぶというセンスの持ち主に薦めたい。個人的な事だが、僕は同ブランドの製品が似合う部屋が欲しいと思う。

# パトス・アコースティック

## PATHOS ACOUSTIC



フロアにある古いピアノを弾くパオロ・アンドリオロ氏

パトスは伝統的なイタリアンデザインをベースに、より現代的な感覚を盛り込んでいる。これはサーキットデザインも同様だ。伝統と革新の見事な調和がここにある

小林 貢

## 美しいヴィチエンツァで育む 先鋭のフォルムと回路デザイン

今年はじめのウインターCESにおいてイノヴェーション・アワードに輝いたイタリアの新進ブランド、パトス・アコースティック社は1994年にパオロ・アンドリオロ、ジャンニ・ボリナト、ガエタノ・ザニーニの3氏によって設立されたまだ若いメーカーだ。デビュー作の「ツインタワーズ」を1995年のアメリカのHi-Fiショウで初めて見つけた時の感激は今でも記憶に新しい。イタリアンデザインの極致といえる美しい姿態。ゴールド、クローム、ウッド等質感の異なるマテリアルの絶妙な組み合わせ。さらに

### 伝統に触れつつ 革新の製品群を開発

今年はじめのウインターCESにおいてイノヴェーション・アワードに輝いたイタリアの新進ブランド、パトス・アコースティック社は1994年にパオロ・アンドリオロ、ジャンニ・ボリナト、ガエタノ・ザニーニの3氏によって設立されたまだ若いメーカーだ。デビュー作の「ツインタワーズ」を1995年のアメリカのHi-Fiショウで初めて見つけた時の感激は今でも記憶に新しい。イタリアンデザインの極致といえる美しい姿態。ゴールド、クローム、ウッド等質感の異なるマテリアルの絶妙な組み合わせ。さらに

ヒートシンクやケミコン、真空管を魅力的に見せながら音質を少しも犠牲にすることがない内部コンストラクションのこと。その特徴を数え上げたらきりが無い。

同社はイタリア北部の美しい街、ヴィチエンツァに拠を構えている。アウトストラクタの出口にはホイールや自転車などでお馴染みのカンパニエーロがある。そこからクルマで10分ほどの林に囲まれ



回路の説明をするボリナト氏



別の場所にある試聴室

た美しい場所に彼らの会社がある。社屋は200ページ以上に及ぶ1冊の本で詳細に語り尽くされるほどの歴史的な建造物である。大理石の床、ホールや各部屋の壁面や天井には数多くのフレスコ画が描かれている。その建物を幾つかの若い会社が借りることで維持しているのだという。我々を出迎えてくれたマーケティングとインタストリアル・デザイン担当に「羨ましくなるような素晴らしい環境ですね」と言うと「歴史のある美しいこの街は我々の誇りであり、ここで生まれ育ってきた我々若い世代だからこそツインタワーズのような斬新かつ革新的な製品を生み出すことができたのです」と自身を持って語ってくれた。自分の生まれた街に誇りを持ち、伝統に触れつつ新しいものを生み出すという彼らの背景



これもまた別の場所にある工場部門

が見えたように思えた。



オフィスのフロアーにはフレスコが飾られている

会社設立への動機づけになったのである。それを除くと後は比較的オーソドックスな従来の技術で固め高音質を得ているという。つまり彼らが言いたいのは、どんなに先進的な

技術や革新であってもオーディオ・コンポーネントが音楽を聴くためのアイテムである以上、最終的に音楽を聴いて感動をもたらしてくれなくては無意味ということだろう。他に先駆けてとか世界初という、セールストークがカタログを賑わすことが多い国の住人には耳が痛くなるような話であった。PATHOSとは感情とか情熱という意味があり、音楽は100%エモーションであり彼らの造るオーディオ・コンポーネントは工業製品だが、あくまでも芸術的なパフォーマンスの高さを競いたいとも語ってくれた。

また「日常的に芸術性の高い生の音楽に接することができる人は少数派であり、CDなどの音楽ソフトは多くの人に芸術性や感動を伝えてくれるものです」彼のメイン・コンセプトは決して音楽をモデファイすることのない製品造りであり、出来る限りシンプル化に徹し、音楽信号を増幅することを目指している。

### 小さな会社だが手工業的な芸術性の高さが魅力

彼らの代表作「ツイントワーズ」のプリアンプ部は3パラ接続のMOSFETの純A級増幅を採用している。ここに搭載されたINPOL回路とはMOSFETのソースフォロワーにインダクタンス(チョークコイル)を用い、ここ



PATHOS INCONTROL

(インダクタンス)に蓄えたエネルギーを使い負の出力電圧を発生させ、低い電源電圧によってスピーカーをリニアに駆動するというものだ。またプリアンプの電源電圧が低いため電力ロスと発熱量を少なくできるメリットがある。そのうえA級シンケルアンプなので微小信号域でもリニアリティが高いなどシンプルながら回路構成ならではの鮮度の高いサウンドが得られるという。まさに先のポリナト氏のコンセプトを具現化した製品が「ツイントワーズ」ということになる。



中央がガエタノ氏。右がそのご子息



バトスの社屋から庭を望む

から車で15分ほどのところにある会計や生産を担当するガエタノ氏の自宅があり、その離れの建物が試験室兼実験室となっている。そこには先のウイインターCESにも展示されていた2ウェイ・ブックシエルフ型スピーカーの試作機があり既に最終調整の段階であった。また、さらに中型トールボーイ型の開発も進められている。近年彼らの仕事を手伝っていると、いう誠実な人柄のガエタノ氏のご子息も将来有望な若者という印象だ。まだ若く日本のメーカーに比べると小さな会社ではあるが多くの理解者に囲まれた会社は今後も目を離すことができないブランドである。イタリアの伝統とでもいうように手工業的に生産される、同社の美しい製品群は工業製品ではあるが音楽をはじめとする芸術に対する愛情と尊敬の念が感じられ、それ自体に高い芸術性にうらづけられている。今回の取材でその秘密が十分に理解できた。



PATHOS INPOWER